

会社名株式会社エー・ピーホールディングス
(コード番号:3175 東証スタンダード)

代表者名代表取締役会長 兼 社長 米山 久

問合せ先経営企画・IR室 室長 坂上 輝瑛
(TEL. 03-6435-8440)

月次営業レポート(2025年10月度)

I. 2026年3月期 国内飲食店 前年同月比(売上高・客数・客単価)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
全店	売上高前年比 (%)	107.7	112.0	115.0	109.5	114.8	96.3	101.3						108.0
	客数前年比 (%)	109.8	109.9	106.3	109.1	116.5	96.9	100.7						106.9
	客単価前年比 (%)	97.4	101.0	98.7	99.9	98.4	100.1	101.2						99.6
	当年店舗数 (店)	136	134	124	124	124	124	124						124
既存店	売上高前年比 (%)	100.7	105.4	101.9	103.7	109.3	99.8	106.6						103.9
	客数前年比 (%)	104.6	105.2	104.6	101.2	106.6	93.3	103.1						102.6
	客単価前年比 (%)	97.0	100.8	96.4	101.7	102.2	105.3	102.2						100.8

* 2025年10月 曜日合わせ後の既存店売上高前年比：106.5% ⇒ 曜日影響 +0.1ポイント

(注)

1. 決算確定前の数値によって算出しております。

2. 既存店:オープン後13ヵ月経過した店舗、但し業態変更等により稼働しない期間は当該月のみ除外

3. 売上高:ランチ・ディナー売上高の合計

4. 客数:ディナー客数(ランチ除く)

5. 客単価:ディナー客単価(ランチ除く)

6. 曜日影響:前年と当年の月内の曜日日数の違いによる影響

【月次ハイライト】

2025年10月度の売上高は、全店ベースで前年同月比101.3%と堅調に推移いたしました。これは、居酒屋セグメントが年末年始の需要を控えた影響で横ばいとなったものの、専門店セグメントおよびレストランセグメントが引き続き好調であったことが主な要因です。

特に、既存店ベースにおいては、売上高が前年同月比106.6%と前年実績を大幅に上回り、大変好調に推移いたしました。

この既存店の好調は、客数が103.1%と順調に増加したことに加え、各業態が導入した秋冬の宴会プランや季節限定メニューが奏功し、客単価も102.2%と伸長したことが主要因となっております。

引き続き、「食のあるべき姿を追求する」というグループ共通のミッションのもと、変化し続ける消費環境に柔軟に対応しながら、今後も一次産業との深い繋がりを活かし、魅力あるブランドづくりを推進してまいります。

区分		前期末	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国内	居酒屋事業	62	61	59	59	59	59	59	59					
	専門店事業	48	49	49	49	49	49	49	49					
	レストラン事業	26	26	26	16	16	16	16	16					
	小計	136	136	134	124	124	124	124	124					
海外		19	19	19	19	19	19	17	15					
直営店合計		155	155	153	143	143	143	141	139					

当月出退店情報

出店
該当なし

退店
塚田農場Harbour City(香港)
美人鍋Sing Post Center(シンガポール)

業態変更
該当なし

<月次トピックス>

① 【Na Camo guro（中目黒）】10周年新コース～生産者とともに歩む鴨食文化の新たな価値の発信地

Na
Camo
guro



東京・中目黒で運営する最上鴨（もがみがも）の専門店「鴨とワイン Na Camo guro（なかもぐろ）」は、10月29日に10周年を迎えました。ブランド創業当初より、山形県・大蔵村の鴨名人 加藤貴也氏が育てる希少価値の高いブランド鴨「最上鴨」を使用し、“鴨食文化の発信基地”となるべく、様々な挑戦を続け、ここにしかない価値を伝える鴨食レストランとして多くの方にご利用いただいています。10周年を機に、これまでより気軽に、カジュアルに最上鴨を味わっていただけるコースを新たに設けました。生産者とともに鴨の魅力を発信する「Na Camo guro（なかもぐろ）」の取り組みにご期待ください。

Na Camo guro 10周年記念コース：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000618.000004635.html>

② 【塚田農場】地鶏の生産状況に向き合い、ブランドの垣根を超えた地鶏使用に切り替え

塚田農場



「塚田農場」は2025年11月1日（土）より九州塚田農場（鹿児島県霧島市 塚田農場、宮崎県日南市 塚田農場、宮崎県日向市 塚田農場）の各店舗で使用する地鶏（鹿児島県産【黒さつま鶏】、および宮崎県産【みやざき地頭鶏】）について、店舗の屋号に囚われず、生産状況にあわせて適宜各店舗で使用いたします。

これにより、災害や感染症などの予期せぬ事象においても、生産者と協力しながらその状況に応じて出荷に向き合い、養鶏・加工産業の安定性の確保に努めることで、地方産業の安定・継続に貢献し、事業の持続可能性に貢献するとともに、当社のビジネスモデル「生販直結」を新たなかたちで実現してまいります。

「塚田農場」地鶏の使用について：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000620.000004635.html>